

りません。智慧は、真理を知ることです。違う言い方をすれば智慧は真か偽かを問うものであるといえます。そして仏教における智慧とは、仏さまの智慧を指します。要するに私達は真偽を判断するものを持ち合わせていない。そのことを仏様に教えてもらうということ。智慧を持ち合わせず知恵で世を渡っていくものが私であり、もつと言えば損か得か頭を回転させながら計算をすることを知恵と呼ぶのだそうです。

● 無智と不知と智者 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

蓮如上人は「無智」とか「一文不知」という語句を使用して門弟に書簡（御文・御文章）を出されました。【末代無智の在家止住の男女たらんともがら

は：』と。末代無智とは言葉が穏やかではないです。末代までの恥という使い方をするように子や孫の代までみたいな意味合いで受け止める方もいらつしやいますが、末代とは後世。前世・現世・後世の後世。死んでから後の世という意味です。いのちの問題です。

続けて【一文不知の尼入道なりといふとも後世をしるを智者とすといへり】と続きます。「一文不知」とは文字一つも知らないという意味です。そのような者でも「後世をしる」を「智者」智慧ある人」というのです。ここで注目したいのが無智と不知と智者。文字一つも「知らない」という意味で不知を使い。しつかり「知」と「智」が使い分けられています。

後世をしるということは、私たちが

が人間として生きていく上でまさに知るべきことであり、逆に言えばこのこと一つがはつきりすれば、生きていくのです。生きるということに執着するだけでなく、死を終わりだと、敗北だと嘆くことなく死んでいけるので

す。
 私たちは仏法に出遇えない限り後世を知るということができません。それは学問でも教養でもありません。私のいのちの問題は、とつくに解決はしていったのだ、阿弥陀さまが引き受けてくださっていたんだ。と聞かせていただきお念仏申す日暮らしに励みましよう。



十月の常例布教(ご法話)のご案内

宗祖親鸞聖人報恩講

○期 日 十月十三日(火)連夜、
 十六日(金)日中まで

※期間は変更となります。

○報恩講布教

北海道教区 空知南組 誓報寺

講師 天野 廣海 師

※現在、コロナ禍における状況を鑑み期間短縮等の対応を協議中です。詳しくは別に配布のご案内をご確認いただくか、お寺までお尋ねください。

○場所 小樽別院本堂

◎なお、報恩講修行に伴い期間中は月忌参詣をお休みさせていただきます。感染症対策の上、どうぞ報恩講にお参りください。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (011-34) 221074 四番
 FAX 291408 八番
 テレホン法話 271161 六番